

# 第1回白山市教育委員会会議録

1 日 時 令和5年2月24日（金）午後3時

2 場 所 白山市役所本庁舎4階 402会議室

3 出席者

教育長	田村 敏和
教育長職務代理者	竹内 千恵子
教育委員	小寺 正彦
教育委員	尾張 勝也
教育委員	安川 薫

欠席者

教育委員	北田 朋幸
------	-------

4 事務局

教育部長	山内 満弘
教育総務課長	米木 伸一
学校教育課長	東野 央
学校指導課長	東海林 幸男
生涯学習課長	北嶋 篤
子ども総合相談室長	川上 照子
松任図書館長兼総務課長	三谷 哲史

書記職

教育総務課課長補佐	杉本 俊彦
教育総務課係長	絹川 幸代

5 傍聴人 なし

6 案件

議案第1号 令和4年度白山市一般会計補正予算（教育費）について  
議案第2号 令和5年度白山市一般会計予算（教育費）について  
議案第3号 白山市立博物館条例の一部を改正する条例について

## 7 議事の経過等 以下のとおり

田村教育長の開議あいさつに続いて、議事録署名委員として小寺委員を指名した。  
諸般の報告について、教育部長より教育長が出席した行事の主な概要について報告した。

### ■主な行事の概要（前回11月29日の教育委員会以降の報告）

- ・ 11月30日（水） いしかわ道徳教育推進事業研究発表会（光野中学校）
- ・ 12月 2日（金） いしかわ百万石文化祭2023第3回白山市実行委員会総会  
（松任文化会館ピーノ）
- ・ 12月5日～12月22日 令和4年市議会12月会議  
12月14・15日 一般質問  
教育委員会への質問は 8議員から37件
- ・ 12月17日（土） 白山市PTA大会（鶴来総合文化会館クレイン）
- ・ 12月23日（金） 雪害対策調整会議（402会議室）  
教育委員会協議会（402会議室）
- ・ 1月 6日（金） 校長会議（402会議室）
- ・ 1月 8日（日） 白山市二十歳のつどい（市内7会場）
- ・ 1月20日（金） 第60回全国中学校スキー大会、第73回中部日本スキー大会、  
第46回北陸アンサンブルコンテスト、第35回中部日本個人・  
重奏コンテスト出場者激励会（鶴来総合文化会館クレイン）
- ・ 1月24日（火） 雪害対策調整会議（402会議室）
- ・ 1月26日（木） 教育委員会協議会（402会議室）
- ・ 1月27日（金） 令和5年市議会1月会議
- ・ 2月 1日（水） 叙勲伝達式（特別応接室）  
新任教育委員研修会（金沢市役所第2本庁舎）  
第4回公立夜間中学開設検討会（しいのき迎賓館）
- ・ 2月 3日（金） 校長会議（402会議室）
- ・ 2月 9日（木） 白山市・野々市市保健衛生、学校保健に係る懇談会  
（グランドホテル白山）
- ・ 2月15日（水） 感性のびのび俳句大会表彰式（402会議室）
- ・ 2月20日（月） 第9回ライン賞表彰式（市民工房うるわし）

本日の議題に入り、議案第1号、議案第2号、議案第3号について、質疑・応答が行われ、原案どおり承認し閉会した。

### 【案件の説明および諸報告について】

案件について、事務局より説明・報告し、原案通り承認された。

【主な質疑・応答の内容について】

○令和5年度白山市一般会計予算（教育費）について

（竹内教育長職務代理者）

校務支援システムについて、これを入れる時に、白山市独自でやると、他のところに合うとか合わないとか、市町をまたいだ時に使い勝手が悪いとか、いろいろ聞いたのですが、結局今、校務支援システムは全県同じものを使っているのですか。

（東海林学校指導課長）

はい。当初考えていたものではなくて、全県統一のものとして入れております。

（竹内教育長職務代理者）

それによって、働き方改革というのは変わりましたか。先生方の、業務の負担というのはかなり減ったのでしょうか。

（東海林学校指導課長）

朝、朝礼、終礼時の連絡は、画面にパッと出てくるようなものがあったり、あと出欠の確認、それらについては大分よくなったと聞いております。ただ、よく言われていたのが、指導案については、前の機能の方がよかったということで、しばらくずっと試して、新しいものを使っていたのですが、どうも前の方がいいということなので、そちらは元の形に戻しました。あとは通知表とか、指導要録とかに全部データが、成績処理されたものが飛んでくることになりましたので、それは随分よくなったと聞いております。

（小寺委員）

小中学校の児童生徒数がまず減っている。それに伴って、クラスの増減があるのかなのかということ、そして県教委の基準の人数と、それから白山市独自の人数で、大分白山市の方が人数を少なくしているのですけれども、それに支障があるのかなのかを教えてくださいたいと思います。

（東海林学校指導課長）

県の方の施策の35人学級についてお話をしたいと思います。小学校5年生の35人少人数学級についてです。県の加配定数の施策を受けて、R5年度より小学校5年生の学級が、35人学級の少人数学級を選択することができました。それで、本市においては、5校が該当となり、5校とも、35人学級を希望しているというのが現状です。なお県では、来年は6年生を35人、少人数学級の選択が可能になるというふうに予定しているということ聞いております。ただ、中学校については、現在中1が35人学級の選択ができるようになっていますが、2年生3年生については、まだはっきりしたものが言われていなくて、

国や県の基礎加配定数の変更の話を注視していきたいというふうに思っております。35人学級については、白山市としてはこのまま継続して施策をとっていきたいと考えています。

(小寺委員)

ありがとうございます。できるだけ、下げた基準でお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

(安川委員)

小学校、中学校ともに児童生徒数が減っているということなのですが、中学校の方の減っているのは、純然に白山市内の子どもが減っているのか、それとも他の市外の中学校に進む率が少し増えたのかということをお聞きしたいのですが。

(東野学校教育課長)

他の学校に行っているということではなくて、自然な増減です。

(尾張委員)

今年は世界ジオパーク認定もあり、今までよりも一層、ジオパークを中心とした体験活動等を推進していかないといけないというのは、皆さんの共通の意識だと思います。別に世界ジオパークになるから特別何かしてというわけではありませんが、何か新たな取り組みであるとか、学校に対してこういう働きかけをしているとか、予算上見て、少しわかりにくかったもので、もしあったら教えていただきたいと思います。

(東海林学校指導課長)

こちらの方には載せていないのですが、今年度は、山ろくと美川地区のジオがすごく研究が進んで、成果物が出たり、発表もうまくいったりしたのですけれども、松任、鶴来地区が少し弱かったということがありますので、来年度、木育を中心に、ジオと木育を絡めて、学習していけないかということをお考えしております。今、中身を考えているところなので、はっきりしたことは申し上げられませんが、それを中心に考えていきたいというふうに考えております。

(尾張委員)

木育は悪くないと思いますが、どこにどういうふうにお願するかとか、誰がそれを伝えるかによって営利が絡んだりという話も聞いたことがあるので、その辺は、慎重にやっていただきたいということが1点と、今の話を聞くと、特に松任地区はやりにくいとは思いますが、市内全部七カ用水が流れていて、ジオパークでも水の旅、石の旅がメインですから、水についても同時に学校に働きかけていって欲しいなということと、もう一つ、いろんな学校の管理職から、例えば来年、今までないような、ジオの取り組みであったり、校外の

授業をするときに、結局足がないとできないということで、スクールバスでも社会教育バスでもいいのですが、児童生徒の移動手段を確保するようなことをもってもらえないだろうかというような話も聞いています。この予算上には、どこにどうなるのかわからないですけども、バスを動かすとなるとお金もかかる部分もあるのではないかと思いますので、ぜひその辺は、現場から声があがった時に、バスがないからそれはできないということがないようにしてほしいなというお願いです。

(東野学校教育課長)

スクールバスの件ですが、限られたドライバーでやっております。できるだけ調整はしていきたいと思うのですが、多数になってくると、なかなか調整もつかないところが出てくるかと思います。やはりドライバーの確保時間というのもございますので、その辺が難しいところです。できるだけ調整はしたいと思いますが、なかなか難しい問題だのご理解いただくと助かります。

(竹内教育長職務代理者)

就学援助の、18パーセントあまりというのは、すごく私としては大きいなと思ったのですが、これはコロナ禍で増えているのでしょうか、例年そんな数字になるのでしょうか。

(東野学校教育課長)

コロナの影響は特にないと思います。

(竹内教育長職務代理者)

2割くらいということですか。

(東野学校教育課長)

はい。

(尾張委員)

さきほど学校教育の方でも言いましたが、今年、世界ジオパークがあるということで学校教育だけではなくて、当然生涯学習、社会教育的な部分でも、盛り上げていってほしいなと思うのですが、例えば生涯学習課として、何か新たな取り組みを今年考えているとか、あるいは公民館等に対して、こういうようなことをしているということが、ジオパーク関係であれば教えていただきたいです。

(北嶋生涯学習課長)

青少年とはまた異なるのかもしれないのですが、先ほど星空のソムリエということで、新しい取り組みがあります。それは自然を体験するというので、まず指導員を育成して、

そのあとに広めていくということは一つ新しい試みでやっています。公民館につきましては、例年通りの事業とはなりますが、子供たち中心のような事業もたくさん取り入れて欲しいということは言っております。ただ、子供たちは最近忙しくて、普段は公民館にも集まらないということは、現場の方から聞いています。

(尾張委員)

公民館については僕も結構言いたいことや、考えることはたくさんあるのですが、例の部分活動の地域移行の部分も含めて、地域で子どもを見るということが、今後だんだん、もっともっと大事になってくるのではないかとというときに、地域の柱はどこかという、やはり公民館とかコミュニティセンターとか、そういうものがすごく今までよりも、大事になってくる。学校、地域、家庭がそれぞれ子どもを見ると言いながら、最近、その地域で見るという部分がすごく弱くなってきているけれども、本当にものすごく大事なところなので、これを全部生涯学習課が抱えるという部分ではないと思いますが、今までの、生涯学習課事業も含めて、生涯学習というものの流れを、舵を切って変えていかないといけないのではないかと。もっと大事にしていけないといけないのではないかと私は思っています。世界ジオパークについても正直、私は世界になろうが、なるまいが、良さはよく知っているのどちらでもいい。ただ、一般の人にとっては、世界になったということが、絶対きっかけになる。でも、一般の人にとっては、そんなにすごいのか、今まで普通に見ていた景色が、なるほどそういえばそうかもしれないなという部分ですごいきっかけになるので、この機を逃すのはもったいない。だから私は、もっともっと予算上に出すべき、出ないとだめだと思います。生涯学習課だけではなく、市全体で当然、ジオパークの担当課でもやっていると思います。もともと連携はしていると思いますが、みんなで盛り上げていくというか、すごいチャンスなのに、もったいないと思っています。予算をうっていなくても、できることはたくさんある。教育委員会の立場としても、観光部局に任せるのではなく、せっかくの機会を生かして、いろんなことを忙しい中ですが、できる範囲でやっていただきたいし、私たちも協力できることは一緒にまたやっていきたいと思っています。そういうお願いです。

(安川委員)

ブックスタート事業なのですが、これは、このものに対する予算ということでよろしいですか。

(三谷松任図書館長)

はい。例年と一緒に、だいたい800セットくらい要求しております。令和5年の1月未まで、485セットを贈呈しております。

(安川委員)

本のすごくいいきっかけだと思っていて、これは4ヶ月検診のときのことだと思いますが、

赤ちゃんとお母さんの愛着形成というところで、とても大事なきっかけになる部分だと思っています。4ヶ月の赤ちゃんに本を読んだところで、かじって終わるとか、お母さんが諦めてしまうような感じのところもありますが、そうではなくて、長い目で見て、近い大人の声で、音で聞かせてあげるといふことの大切さとか、そういうものをぜひ知っていただく機会があったらいいなと思いますので、またよろしく願いいたします。